別紙

NTT ドコモグループの生物多様性保全に貢献する活動例

■ドコモの森での保全活動

ドコモの森は、全国 47 都道府県、49 か所※1 に設置しており、総面積は約 210 ヘクタールとなっています。ドコモの森の一部では、環境省のレッドリスト・レッドデータブックに指定される絶滅危惧種が生息することも確認されており、絶滅危惧種の保全に向けて、該当エリアの保全計画を策定し、自然共生サイトへの登録をめざし保全を進めています。

■自治体との連携協定や生物多様性保全の取組み

ドコモは埼玉県所沢市・公益財団法人日本自然保護協会との３者による連携協定を締結※2し、自治体の生物多様性回復活動の支援を実施しています。本連携を通じ、まだ手法が確立していない企業参画によるネイチャーポジティブへの貢献度の見える化にも挑戦しています。

■水中ドローンを活用したサンゴ生態調査支援の取組み

ドコモは「OIST サンゴプロジェクト」※3 のスペシャルパートナーとして、サンゴ生態調査への協力を通じた生物多様性の保全に取り組んでいます。 OIST 研究グループによるサンゴ生態調査では、ドコモの水中ドローンの活用により、これまで解明が困難であったより深い海域（30m から 80m）における映像・写真による調査や海水の採取などを通じ、サンゴ礁エコシステムの研究を支援しています。

■スマート林業の推進に向けた実証事業の実施

高齢化・担い手不足が問題となっている林業分野において、ドコモは、南佐久中部森林組合、株式会社筑水キャニコムと結んだコンソーシアムの代表者として、林野庁の実証事業による「通信システムを活用した下刈り作業機械の遠隔操作化」の実証実験を行いました。

※1 2023 年 3 月時点

※2 2023 年 5 月 16 日 「自治体規模のネイチャーポジティブをめざし所沢市、ドコモ、日本自然保護協会が連携協定を締結～企業参画によるネイチャーポジティブへの貢献度の見える化にも挑戦～」

※3 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園（OIST）によるサンゴ保全プロジェクト